

# ダイバーシティ海外派遣事業報告



保健学研究科  
種村留美

行程	February	AM	PM
	2 Sat		Gender interview
	3 Sun	Gatwick 11:15	Glasgow 12:45
	4 Mon		Glasgow University
	5 Tue	Glasgow University	Glasgow 13:40-15:05 Gatwick
	6 Wed		Oliver Zangwill Center
	7 Thu	Addenbrooke's acute brain injury meeting	MRC-Cambridge University Athena Swan
	8 Fri		OZC
	9 Sat		Gender interview
	10 Sun		
	11 Mon	Community Head Injury Service	
	12 Tue	University of East Anglia	10:00 Raphael Hospital, Hildenborough
	13 Wed		Heathlow 10:20-15:15 HEL AY1332
	14 Thu		HEL 10:10-10:10 Arlanda AY805
	15 Fri		Gender interview
	16 Sat		Gender interview
	17 Sun		Karolinska Institutet
	18 Mon		R&D (Camilla)
	19 Tue		Nursing home Stureby
	20 Wed		Trosa
	21 Thu	Karolinska Institutet	Stockholm
	22 Fri		Stockholm
	23 Sat		Karolinska Institutet
	24 Sun		Karolinska Institutet
	25 Mon		Arlanda 17:35 AY077
	26 Tue		
	27 Wed		
	28 Thu	10:00:KIX	

## Gender Equality :

- Athena Swan
- Gender Equality調査



## Athena Swan

Advance HE's Athena SWAN Charter was established in 2005 to encourage and recognize commitment to advancing the careers of women in science, technology, engineering, maths and medicine (STEMM) employment in higher education and research.

Award: Bronze, Silver and Gold



## Athena Swan受賞大学

### Glasgow University : Gold award

- ・教授30人のうち女性教授12人；40%
- ・目指すべきrole modelsとなる女性教授がいる。  
⇒モチベーションアップが明確になり、教授への道筋
- ・gender equalityに対して長期間続くcommitmentを実施
- ・論文執筆のための女性研究者に対するワークショップ
- ・子どものいる研究者が参加できる会議時間10時~16時
- ・勤務時間以外はメールのやり取りは行わない。
- ・子どもが発熱した際にも勤務できるサポートシステム。
- ・大学内に保育所。
- ・Athena SWANのSELF-ASSESSMENTを実施することで、研究者としてAction Planを立てることができる。



### MRC-Cambridge University : Silver

- ・教員数(119人)うち女性教員数(28人)
- ・女性のための新しい基金(パートタイム研究者のための、勤務日外学会等出席を補填)。
- ・子どものいる研究者のため毎週のセミナーの時間変更。
- ・お昼にお茶とケーキでのセミナー
- ・大学内に複数の保育所
- ・子どもの長期休暇の間、Playscheme:遊び(手芸・コンピューターetc.)・運動(サッカー、バスケetc.)などのスキルを伸ばすクラブを開催。
- ・'My Family Care'(emergency childcare):子どもの病気の際、自宅に訪れ子どもをみてくれる。

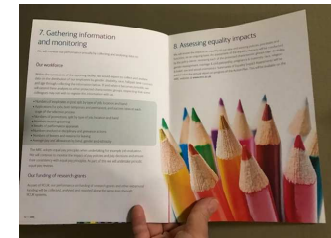


5

## Gender Equality調査

### インタビュー内容

- ・目指すべき上司やトップの女性職員の存在
- ・Gender平等のプログラム
- ・職場での配慮
- ・ロールモデルの存在
- ・メンター制度
- ・女性研究者の活躍に必要なもの
- ・育休
- ・家族からのサポート



6

## 調査対象者の出身国

項目	下位項目	結果(人)
出身国	イギリス	14
	スウェーデン	8
	その他	4
年齢	20代	10
	30代	3
	40代	5
	50代	7
	60歳以上	1
雇用形態	常勤	24
	非常勤	2
	公職	0



7

## ジェンダー平等のプログラム(大学)

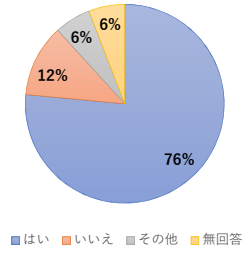
- ・女性に対する会議や学会出席のための助成金導入。
- ・子供のいる職員が参加できる時間にセミナー実施。
- ・女性より男性の教授職が多い。目標はもっと多くの女性教授を得ること。

- ・ジェンダー平等は存在しているが、女性は出産があるため、多くの企業は女性を雇いたくない。
- ・ジェンダー平等は職業によって異なる。法律では平等が保証されているが、田舎ではスティグマが残っている。

8

## 職場での配慮

### 女性に優しい職場か？



### 【配慮に関するコメント】

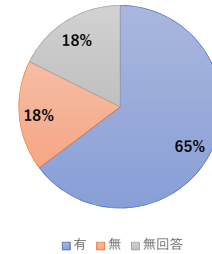
- ・発展の機会へのアクセスの点ではジェンダーによるバイアスはない。
- ・昇進のワークショップ。
- ・キャリアにおいて相互扶助で女性のOTで研究者になることができる。

- ・女性が研究資金を取ろうとすると男性より難しい。
- ・女性の方が仕事が大変。
- ・公的にはないが、プライベートではいまだに差別が存在する。

9

## ロールモデルの有無

### ロールモデルの有無



### 【コメント】

- ・上司
- ・ロールモデルが2人。
- ・シニアOT・学科長と施設長。

- ・私が他の人へのロールモデルである。

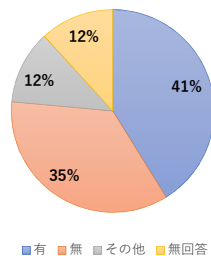
- ・学科にはいるが、学部レベルにはいない。

- ・私が知る限りいない

10

## メンター制度の有無とその利用

### メンター制度の有無



### 【コメント】

- ・スーパービジョン(6週間)、コーチングのリーダーシップ。

- ・女性に特化していないが、たまたま素晴らしいメンター(女性)がいる。

- ・平等とダイバーシティに関するプログラムと家族に優しい政策をもっている 例：carer's leave

- ・若手スタッフにはある。

- ・公式でないが文化としてはある。

- ・臨床家はtrust mentoring schemeがあるが臨床家以外にはない。

11

## 女性研究者の活躍に必要なもの

### 環境

- ・仕事時間の柔軟性など。
- ・子供のケアへの理解と仕事の柔軟性。
- ・支援してくれるパートナー、性差別をしない雇用者。
- ・ロールモデル、先輩教員からの支援。
- ・学科が女性研究者を育て支援すること(教育と機会を与えること)。

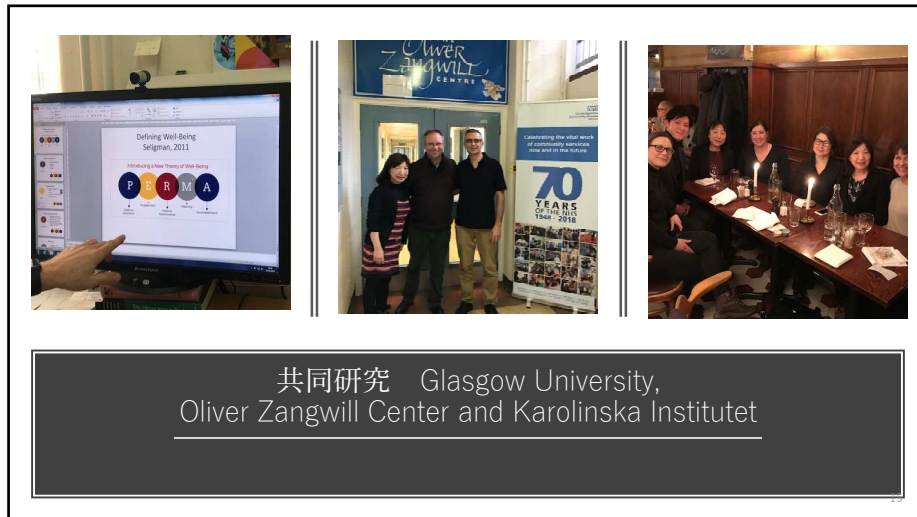
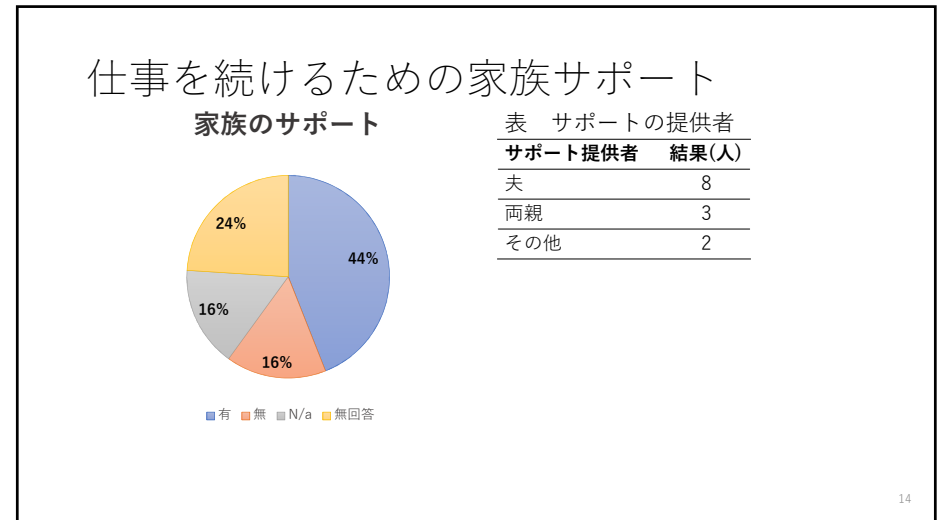
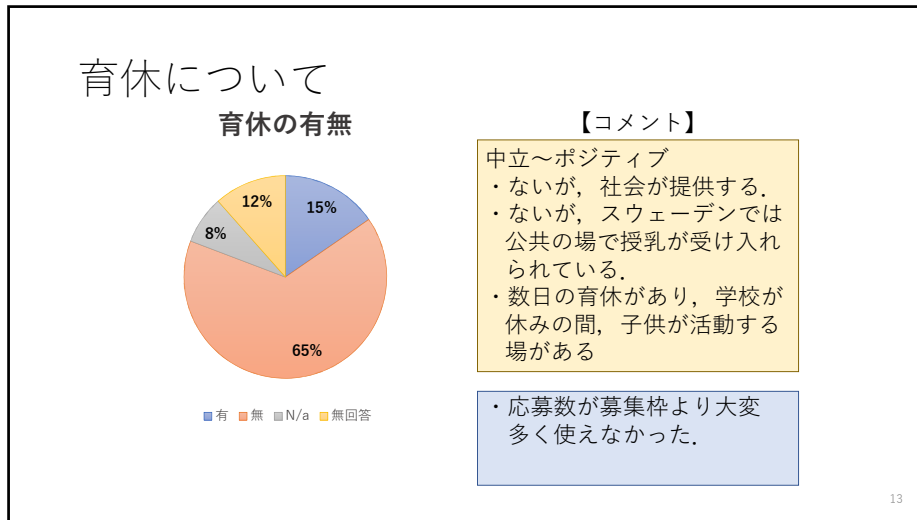
### 自己努力

- ・自分で自分自身を動機づけ、駆り立てること。
- ・私生活と仕事のバランスを取ること。
- ・強い才能を持つこと、頑固であること
- ・教育に在ること、更なる教育を追い求め、自分の夢を追いかけること。

### その他

- ・研究のメンターと共同研究。
- ・教育、ロールモデル、励まし。
- ・時間、機会、自信。
- ・courseに行く機会とネットワーク、および研究を始めるリーダーシップ。
- ・私の職場では論文を出すこと、外部資金を取ること。

12



**Glasgow University (Professor Jon Evans)**

- Well Being PERMA(Positive Psychology)のリハビリテーション (作業療法) への応用
- Evans教授のゼミに参加 (高次脳機能障害例へのICTツールの開発研究など)
- Brain Injury Centerでの研究指導への参加

**OZC : Director Andrew Batemanのオーガナイズにより下記のミーティング等に参加**

- Addenbrooke's acute brain injury meetingに参加
- Cambridge Universityでの研究ミーティング参加
- Community Head Injury Serviceでの研究指導に参加
- OZCにてICTツール研究を発表
- UEAIにて半側無視の研究についてミーティング
- Raphael病院 : Barbara Wilson教授の臨床見学




16

## Kalorinska Institutet



- CACTUS 研究ミーティングにて神戸大学チームもプレゼン
- カロリンスカチームの研究ミーティングに参加
- カロリンスカとのMOUについてディスカッション
- 地域での高齢者研究所（FOU）にてロボットケアについてプレゼン
- OTの学部授業、大学院授業に参加
- 認知症施設 Stureby NH見学
- コレクティブハウス見学



17

## 終の棲家としてのコレクティブハウス

住み心地を聞く



食事は当番制：居心地の良い食堂



18

## 女性研究者招聘：国際シンポジウム2019年3月22日 『少子・高齢社会のジェンダーと脆弱性サポート』

### 招聘女性教員

- 1 Dr. Lena Rosenberg Karolinska Institutet 3/20-3/28 (Keynote speaker)
- 2 Dr. Anna Brorsson Karolinska Institutet 3/20-3/28
- 3 Dr. Margarita Mondaca Karolinska Institutet 3/20-3/28
- 4 Dr. Gabriele Schwarze FH Joanneum University of Applied Sciences 3/17-3/26
- 5 Dr. Hsiu-Yun Hsu National Cheng Kung 3/21-3/28 University
- 6 Dr. Supawadee Putthinoi Chiang Mai University 3/19-3/26



## OT Workshop Monday, March 25<sup>th</sup>, 2019



ご清聴ありがとうございました

20